

# 令和6年度 第65回宮崎県学校体育研究発表大会 全体会【 つながりのある学習 】授業研究会の記録

## I 指導助言者 【 宮崎大学大学院教育研究科 三輪 佳見 教授 】

### 【 学習指導要領改訂の変遷 】

- 平成 20 年度改訂において、小学校から高等学校までのつながりを“4-4-4”として捉え、校種間をまたいだ指導を行うという考え方が入ってきた。  
→ “生涯にわたってスポーツに親しめる力＝中学生新人戦の技能レベル”の考えのもと指導が始まり、高校卒業時に身に付けておくべき目安として示されたが、実際に指導していく中で、なかなか身に付かない・難しいという問題に直面した。

- 平成 29 年度改訂においては、指導していく困難さを解決するための方策として、①多様な関わりができる人材を育てる ②3つの柱を関連付けて指導していくことが求められるように修正された。

### 【 共生の視点に立った授業づくり 】

- “みんなが楽しめるルール”に焦点化してルールについて考えたり、共生の視点として協力的に取り組む体育の授業は良い。  
→ ただし、技能も一緒に関連させていかなければならない。みんなが楽しむルール作りを通して技能が高まっていかなければならない。みんなが楽しめた先に技能の向上があるはずである。その視点は今後の課題である。

### 【 バレーボール(ネット型)の特性 】

- 本来のネット型の競争とは、ラリーが続くことを目標とするのではなく、相手にラリーをやめさせることによって得点が得られる攻防にある。  
→ サーブだけで終わると面白くない。相手との攻防で繋いで返す、それもまた繋いで返すというラリーが楽しい。攻撃がなければ簡単にラリーができる。つまり、パスが繋がるという土台のもと、ネット型の学習を進めていく必要がある。
- ボールを打つ動作とは、「①腕を振る(振り子のように)」「②手が直線状に動く」から構成される。  
→ オーバーハンドパスでは、多くの人が腕を振ってしまう。
- オリジナルルールとして扱われていた“キャッチ”は、次の動きに繋がるようにする必要がある。  
→ 難易度を下げて“キャッチ”させることは悪いことではないが、ボールを取れない児童生徒は、ボールに触れることもできない。素振りの練習をいくらしても取れない児童生徒にとっては空振りの練習をさせているだけになってしまう。キャッチ自体は悪くないため、バレーボールの動作と関連付けて考えて欲しい。

### 【 小学校部会の授業について 】

- 最後の返球の際に、ボールを遠くへ飛ばさないといけなため、腕を振る児童が多かった。
  - アンダーハンドパスは、完全に腕を振ってしまうとボールがどこに飛ぶか分からないため、打球面が大事になる。面の作り方を教えてどこに飛ぶかを指導することで、最後の返球の際には、掌が返球したい方に向いて、子どもたちも返球しやすくなる。
  - ワンバウンド有りて授業を進めるのであれば、①アンダーハンドでパス⇒②2人目キャッチして投げる⇒③3人目が打つ。の流れができれば、ラリーも続いて中学校との関連も図られた。

### 【 中学校部会の授業について 】

- “セカンドボールキャッチ”は、ネットから遠い所でキャッチをして、前に移動しトスを上げるようになっており、慌ててトスが上げられない場面が見られた。
  - “3秒ルール”は展開を早める意味でも良い工夫であった。
  - 自分でボールを上げてからトスをするというのは、難しい子には難しい。なぜなら、ボールをしっかりと飛ばそうとすれば「下半身を使いなさい」「体の動きを大きくしなさい」と指導する。そう聞いてボールを上げて体を大きく使って返そうとすると、自分で上げるボールを高くしないといけな。そうなると難しいボールが返ってくる。小さくボールを上げようとする小さな動きでオーバーハンドパスができないということに陥る可能性がある。

### 【 高等学校部会の授業について 】

- パス練習の後にいきなりゲームだった。もっとチームでゲームのための練習をしてゲームに入りたい欲しかった。
  - 男女で対格差もあるため同じルールでゲームを行っても難しいため、男子はバックアタックのみなどのルールの工夫があってもよかった。

### 【 特別支援学校部会の授業について 】

- 共生の視点に立った授業づくりにおいては、個による違いを見極めることが大切である。
  - 個に対する支援に関して、他の校種に見られない細やかさに感心する。
  - 学習指導案に関して、小・中・高も体力テストの結果だけを記載するのではなく、本単元との関係を記入していくことが求められる。

### 【 全体を通して 】

- ルールの作り方も発達の段階のまとまり(4-4-4)に応じて成長していけると良いのでは。
  - ① 小1～小4：先生が最初から作って簡易化する。
  - ② 小5～中2：先生が作ったルールから子どもたちが選択する。
  - ③ 中3～高3：自分たちでルールを設定する。
- 最終的に自分たちでルールを決めることができて高校を卒業していくなどができれば、ルール作りにも発展性があるつながっていくとよい。この大会がその出発点になってくれればと思う。